

# 年内入試の動向

## ① 高校生の動きから

リクルート 進学総研

鹿島 梓

# 高校生の動きから探る -リクルート進学センサス2022より

## <調査概要>

- 調査目的：高校生の進路選択プロセス（行動・意識）を中心に、進路選択に関する情報源、学校主催イベント、進路指導の内容と影響等を把握し、高校生の進路選択の現状を明らかにする
  - 調査期間：2022年3月4日～4月5日 投函・インターネット回答締切
  - 調査方法：郵送調査＋インターネット調査
- ※ 調査票を郵送、回答を記入のうえ郵送または記載のURLからインターネット回答
- 調査対象：調査開始時点で2022年に高校を卒業見込みの全国の男女210,000人
  - 令和3年度学校基本調査の「全日制・本科3年生生徒数（県別）」、「中等教育学校・後期課程3年生（県別）」を基に、リクルートが保有するリストより調査対象とする数を抽出
  - 有効回答数：14,968人（回答率7.1%）うち、本報告では大学進学者10,841人が対象

# コロナ禍で資料請求は増えるが最終的な出願数は減少

<データポイント>

- 興味関心校は微減（2019年5.78校→2022年5.69校）、資料請求校数は増加（2019年5.65校→2022年6.97校）
- 出願校数は減少（2019年3.04校→2022年2.72校）、のべ出願件数は減少（2019年4.01件→2022年3.80件）
- OC参加状況では、高2での参加率が▲42pt、3年間トータルで約8割の参加率に留まり、平均参加校数も約1校減少（2019年3.87校→2022年2.92校）

## 興味関心校数・資料請求校数・出願校数・出願件数

調査年	調査数	興味関心校数平均	資料請求校数平均	出願校数平均	のべ出願件数平均
2022年	10841	5.69	6.97	2.72	3.80
2019年	2071	5.78	5.65	3.04	4.01
2016年	3051	5.78	5.73	2.94	3.83

## OC参加状況

■参加経験（各学年単一回答）

調査年	調査数	高校1年	高校2年	高校3年	無回答	高校3年間トータル
2022年	10841	41.7	29.1	61.7	—	79.7
2019年	2071	47.3	71.5	71.4	6.1	93.9
2016年	3051	46.5	69.2	74.3	5.8	94.2

■のべ参加校数（実数回答）

調査年	調査数	1校	2校	3校	4校	5校以上	無回答	オープンキャンパス参加校数平均
2022年	8641	28.4	25.7	18.4	10.8	16.6	0.1	2.92
2019年	1944	16.0	20.2	18.9	12.4	31.3	1.1	3.87
2016年	2875	17.4	21.0	18.9	11.3	29.9	1.5	3.76

（大学進学者／実数回答）

# 進路検討行動は全体的に早期化

<データポイント>

- 最終進路の校種問わず、進路選択スタートは早まっている
- 高3で「学校を調べ始めた」は2割をきる。「資料請求」は高2で最も多く約4割が動く
- 「初めてのOC参加」はコロナ影響で高2参加が大幅減、特に大学は開催中止も多く影響大
- 「受験校を決めた時期」は高3が圧倒的に多いが、経年で見ると徐々に前倒れしている
- 「早期化」による「長期化」が昨今の進路検討の特徴と言える

	調査年	調査数	高校入学以前	高校1年	高校2年	高校3年4～9月	高校3年10～3月
どんな学校があるかを調べ始めた時期	2022年	10841	6.0	37.2	35.9	17.9	1.2
	2019年	2071	4.9	36.6	33.5	19.9	1.5
	2016年	3051	4.3	32.7	36.1	21.1	1.4
	2013年	3256	3.5	29.9	38.3	22.6	1.7
興味を持った学校の資料請求をした時期	2022年	10841	1.5	25.2	36.1	28.9	2.6
	2019年	2071	1.3	23.1	31.6	29.1	5.2
	2016年	3051	1.4	21.3	31.1	31.7	5.9
	2013年	3256	1.2	18.1	33.0	34.4	5.9
初めて大学・短大・専門学校を見に行った時期	2022年	10841	4.5	35.1	15.1	24.4	5.2
	2019年	2071	3.3	33.8	35.3	19.3	1.9
	2016年	3051	2.7	34.2	32.1	21.6	2.3
	2013年	3256	2.1	27.8	34.2	26.3	2.7
第一志望の学校を受験校に決めた時期	2022年	10841	2.9	9.3	17.4	49.0	18.3
	2019年	2071	2.0	8.3	16.0	44.8	20.1
	2016年	3051	2.2	8.4	18.9	46.7	18.2
	2013年	3256	3.5	8.4	19.1	46.5	19.4

(大学進学者／各行動SA)

# 年内入試合格で進学する高校生が増加し、年明け入試と並ぶ

<データポイント>

- 2019年比で一般選抜が8pt低下、総合型選抜・学校推薦型選抜が共に4pt上昇
- 2022年は年内と年明け入試層は47%とほぼ同率に

## 進学する大学に合格した入試方法 (SA)

	調査年	調査数	年明け入試・計		年内入試・計			その他	無回答		(%)	
			一般選抜	共通テスト利用入試	総合型選抜	学校推薦型選抜	年明け入試・計				年内入試・計	
大学進学者全体	2022年	10841	41.3	5.8	12.7	34.2	5.2	0.8	47.1	47.0		
	2019年	2071	49.7	7.2	8.8	30.2	2.8	1.3	56.9	39.1		
	2016年	3051	48.2	7.5	6.8	32.4	3.1	2.0	55.8	39.1		
大短 進学率別 70%以上・計	2022年	7987	48.5	6.5	10.2	29.5	4.6	0.6	55.0	39.8		
	2019年	1628	54.2	7.9	7.4	26.2	2.8	1.5	62.1	33.6		
	2016年	2386	53.9	8.0	5.1	27.7	3.4	2.0	61.8	32.8		
大短 進学率別 70%未満・計	2022年	2800	21.0	3.7	19.6	47.9	6.7	1.1	24.7	67.5		
	2019年	412	30.8	4.9	14.8	46.6	2.7	0.2	35.7	61.4		
	2016年	628	27.1	5.7	12.6	50.5	1.9	2.2	32.8	63.1		

※2019/2016年は下記項目を集計

「一般選抜」は一般入試、「共通テスト利用入試」はセンター試験利用入試、

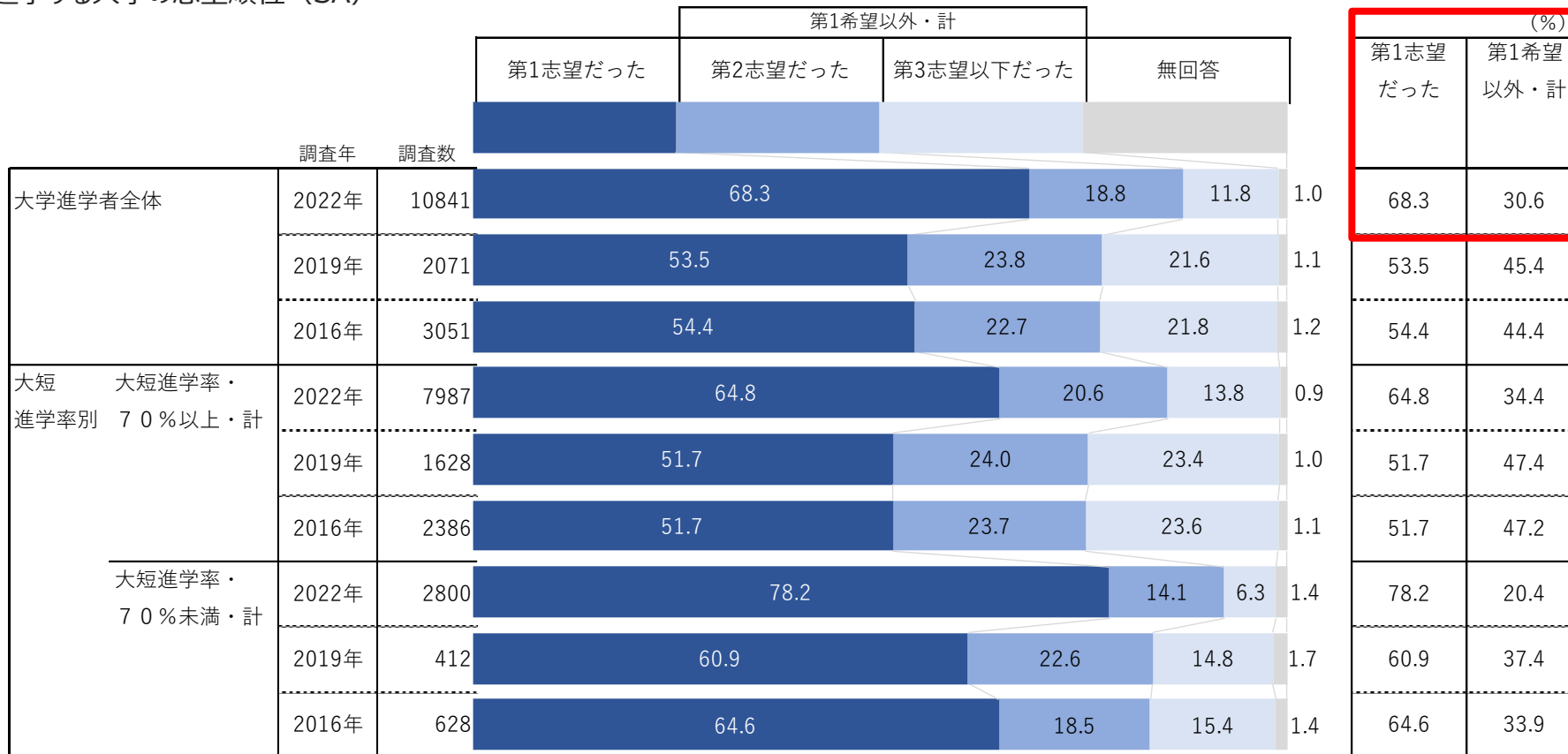
「総合型選抜」はAO入試、「学校推薦型選抜」は推薦入試（公募）・推薦入試（指定校）・自己推薦入試

# 第一志望校へ進学する高校生が増加

<データポイント>

- 進学した大学の志望順位が「第1志望だった」割合は68%、2019年比で15pt上昇
- (ここにはデータなし) 入試方法別では「総合型・学校推薦型選抜」の第1志望率が87%と高い
- 各大学は入学者獲得のため年内入試の合格者を増やしており、一般選抜を含めた志願倍率は低下している(国大協は年内3割目標を掲げている)
- よって、**総合型選抜や学校推薦型選抜などへのシフトに加え、“合格しやすい”受験環境となっていることも、第1志望校割合を押し上げている要因と考えられる**

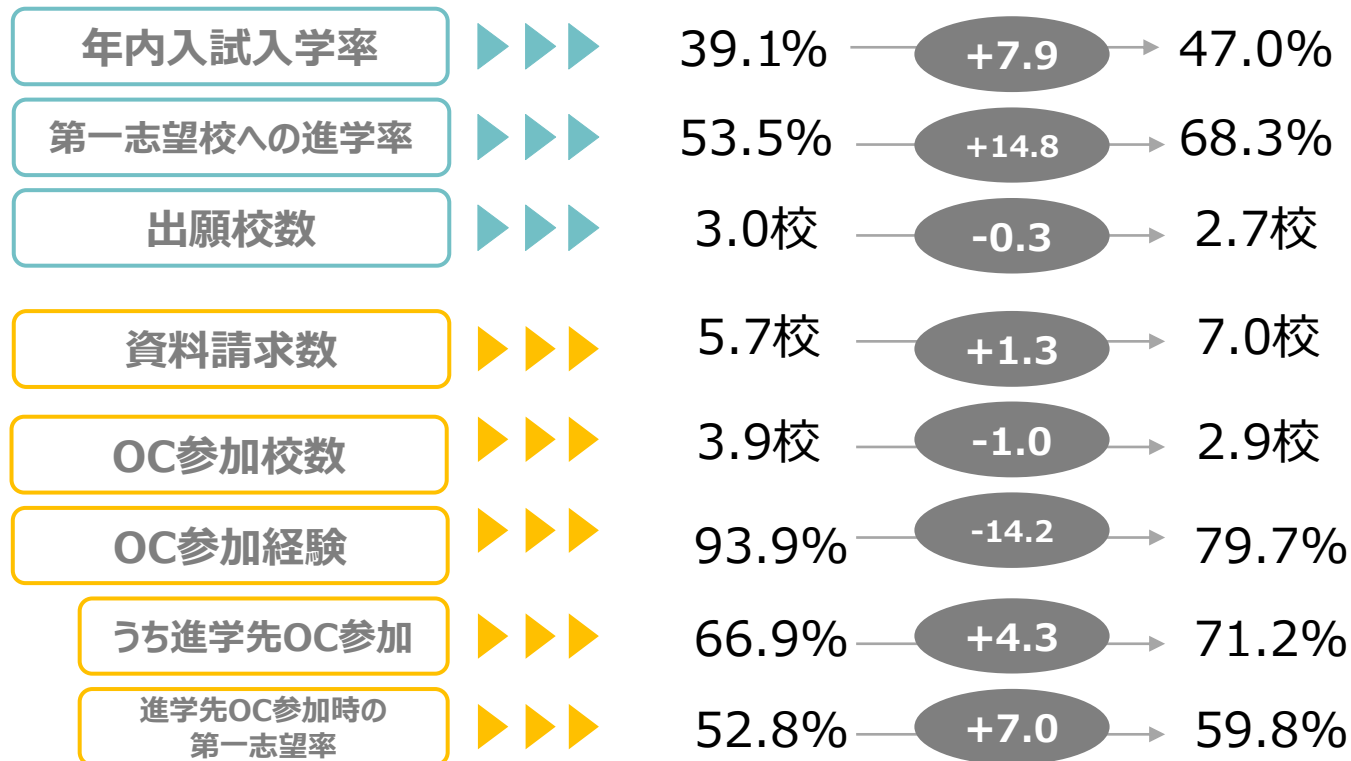
進学する大学の志望順位 (SA)



## まとめ

<まとめ>

- ▶年内入試入学率が増え、受験時期は早期化→全体的に進路検討・選択行動は早期化した結果、長期化
- ▶早期に受験校を絞り込み、かつ年内受験が増加→出願校数は減少、複数校受験が減少
- ▶総合型選抜や学校推薦型場選抜での合格者が増え、第1志望割合を押し上げる要因に
- ▶第1志望を早期に決定し、合格のため多様な入試の選択肢をチャンスと捉えて年内入試に挑戦している様子が窺える
- ▶一方、コロナ禍で思考が内向きになり、「次何が起こるかわからない」という焦燥感、リアルイベントへの参加ができず、進路指導が縮小した結果、選択肢を拡げずに「知っている大学」を中心に選び、年内入試で（第1志望ということにして）受験を終わらせたい心理が表れている可能性もある





スタディサプリ

高校・大学の取り組み事例等はHPに掲載しています。  
「リクルート進学総研」

リクルート進学総研

